

科目名称：	幼児と表現B		
担当者名：	上野 高裕		
区分	授業形態	単位数	
専門教育科目	講義	1	
授業の目的・テーマ			
<p>様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるために、自身も豊かな感性や表現力の知識を身に付ける。特に歌遊びや歌唱表現の構成力、表現力、展開力を身に付け、楽曲の簡易伴奏も独自に構成し、保育現場での実践に役立てることを目指す。</p>			
<p>領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びなどについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。</p>			

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)			70	30	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
音楽基礎知識の理解	楽譜上の名称等がほとんど理解している	だいたい理解している	半分は理解している	ほとんど理解できない
歌唱技術	正しい音程、大きな声で歌える	大きな声で歌える	音程は取れている	ほとんど声が聞こえない
表現意欲	現場で即実践できる	実践しようとしている	実践しようとするのがやや消極的	実践しようとするのがかなり消極的
授業態度	何事にも積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいる	取り組んでいる	参加しようとする意欲がない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間
第1回 領域「表現」のねらい及び内容の理解、基礎的な知識・技能の確認+歌唱表現練習	領域としての「表現」の意義とねらいの整理及び音楽基礎知識の整理	40分
第2回 〈言葉と表現〉+歌唱表現練習	言葉と音楽の関係整理及び「チューリップ」「ちょうちょう」の歌唱表現整理	40分
第3回 〈歌と表現〉+歌唱表現練習	「あくしゅでこんにちは」「こいのぼり」の音楽構成復習と弾き歌いの練習	40分
第4回 第1回から第3回のまとめ+歌唱表現練習	第1回から第3回までの歌唱曲の復習と「こいのぼり」小レポート(宿題)のまとめ	60分
第5回 幼児の発達の理解 音楽と言葉遊び+歌唱表現練習	「かわいいかくれんぼ」「さよならのうた」の音楽遊び整理と復習	40分
第6回 豊かな表現のために 歌遊びとリズム遊び(グループワーク)+歌唱表現練習	「むすんでひらいて」歌遊びの整理と弾き歌い練習と読譜練習プリントの学習	40分
第7回 豊かな表現のために 拍子の変化や変奏と歌遊び+歌唱表現練習	「山の音楽家」「あめふりくまのこ」テンポの比較と弾き歌い練習。	40分
第8回 豊かな表現のために 和音のしくみと歌遊び+歌唱表現練習	和音のしくみの整理。「たなばたさま」「うみ」の楽曲を使用して。	40分
第9回 豊かな表現のために 和音の変化と歌遊び+歌唱表現練習	和音の変化の整理とコードネームの復習及び左手コード練習(以後も継続)	40分
第10回 第5回から第9回のまとめ+歌唱表現練習	第5回から第9回までの楽曲復習と「とけいのうた」小レポート(宿題)のまとめ	60分
第11回 豊かな表現のために 調の変化と音楽表現の変化+歌唱表現練習	「チューリップ」「ぶんぶんぶん」の移調の復習と左手コード練習の継続	40分
第12回 幼児の表現を受け止め共感するために 簡易伴奏の基礎と歌唱練習	歌遊び、リズム遊びの復習。「こぶたぬきつねこ」「やきいもグーチーパー」の楽曲で。	40分
第13回 幼児の表現を受け止め共感するために 簡易伴奏の展開と歌唱練習	簡易伴奏の形式の整理と「七夕」に関する小レポート(宿題)のまとめ	60分
第14回 第11回から第13回のまとめ(ディスカッション)	レポートリーを広げる。秋～冬の楽曲に触れる。	60分
第15回 全体のまとめと復習 実践を通して保育の場における音楽表現活動について考える	弾き歌いのレポートリーを更に増やし、音楽表現活動の幅を広げる。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

授業内チェックシート (30%)、提出課題の評価 (40%)、授業への積極的関与 (30%)

課題に対するフィードバック

提出課題については、ルーブリック等で評価し、返却する。

教科書・参考書

教科書：改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 (教育芸術社)
教科書は毎回の授業で使用する
参考書：授業内で適宜楽譜や資料を配布する。